

第98回全国高校サッカー選手権大会



矢板中央高等学校サッカー部



4037 チーム



特集 飛躍するために

今シーズンのチームに対する評価は「谷間の世代」という酷評だった。

昨シーズンに引き続き今シーズンも「県新人戦」「インターハイ県予選」「選手権栃木大会」で優勝し、県内では3冠を誇る無双のチームではあったものの、関東地方1都7県の高校生チームが参加するプリンスリーグでは、昨シーズンの優勝から一転最下位に終わったためだ。

この全国選手権大会で結果を残すことが、屈辱的な評価を見返す最後の舞台となった……

「谷間の世代」なんてもう言わせない！奮起した彼らが大会に臨み、全国の強豪校がひしめく中、堂々の全国3位という結果を残した。酷評から奮起し全国で飛躍したその戦いをご紹介します。

市内に拠点を置く小中学生のクラブチーム、ヴェルフェ矢板・矢板SC。両クラブには、市内外から多くのサッカー少年が足しげく通い、将来の夢に向かって日々練習に励んでいます。次代を担う彼らの活躍も合わせてご紹介します。

全国大会マッチレポート

全国 4,037 校の頂点を決める第 98 回全国高校サッカー選手権大会が、昨年 12 月 30 日から 1 月 13 日にかけて行われた。栃木大会を振り返ると矢板中央は初戦から毎試合失点が続く薄氷を踏む思いで決勝までコマを進めた。佐野日大との県大会決勝戦でも、PK 戦にまでもつれ込む

苦しい展開の中、辛うじて全国への切符を手にした。全国大会での成績を不安視されながらも、3 年連続ベスト 8 以上、そして、矢板中央歴代最高位に並ぶ、堂々の全国 3 位の結果を収めた。選手たちは全国大会でどのような戦いを見せたのか、その活躍をレポートします。

1 回戦 12月31日 ゼットエーオリスタジアム (市原市)

矢板中央 2-2 大分 (大分)

2 点先行するも同点に追いつかれ、PK 戦へ

開始早々試合が動く。前半 4 分に MF 靄見がシュート、相手 GK が弾いたこぼれ球を FW 多田が押し込み先制した。その後、矢板中央はロングボールを主体に主導権を握るも追加点を奪えず前半終了。後半 2 分には、MF 左合が左サイドからドリブルでペナルティーエリアに切り込むと相手のファウルを誘い PK を獲得。

このチャンスに MF 左合がきっちり決め 2 点目を奪った。後半 14 分に 1 点を返され、22 分にもカウンター攻撃を受け続けざまに失点し、同点に追いつかれてしまい、そのまま PK 戦へ。1 年生 GK 藤井が相手シュートを止めるビックセーブを見せ、6-5 で PK 戦を制し、3 年連続で初戦突破を果たした。

2 回戦 1月2日 ゼットエーオリスタジアム (市原市)

矢板中央 2-1 大分前高松 (香川)

終始ボールを支配。相手の堅守をこじ開け勝ち越し

序盤からボールを支配し押し気味に試合を進めるも、相手の堅守に阻まれチャンスを生かせない展開が続く。前半 32 分、ロングパスからこぼれたセカンドボールを MF 靄見がミドルシュート。先制点を決め勢いづいたが、その 7 分後、相手のロングスローからゴールを奪われ 1-1 の同点のまま前半を折り返した。

後半 15 分、途中出場した FW 久永のスルーしたボールを受けた MF 左合が、相手を巧みにかわしゴール右隅に技ありの勝ち越し弾を決めた。その後、同点に追いつきたい相手のロングスロー攻撃に苦しむも、DF 坂本などの好守で耐え抜き、後半を無失点に抑え 3 回戦進出を決めた。

3 回戦 1月3日 フクダ電子アリーナ (千葉市)

矢板中央 2-0 鵬学園 (石川)

栃木大会を通じて初の無失点で、3 年連続 8 強入り

立ち上がりから得意のセットプレーで押し気味に試合を展開。前半 14 分、左サイドからのクロス相手 GK が捕球ミス。弾かれたボールに素早く反応した FW 西村が無人のゴールに押し込み、矢板中央は 3 試合連続の先制点をあげる。後半に入ると相手の反撃が始まり、サイドから攻め込まれ耐える時間が続く。相手

の反撃もキャプテンの DF 長江を中心に体を張った堅守でゴールを守る。後半 37 分、MF 左合が敵陣でボールを奪い、そのままドリブルでゴール前まで持ち込むと、初戦から 3 試合連続のゴールを決め、試合を決定づけた。無失点のまま試合終了となり、予選の栃木大会を通じて初の完封勝利となった。

1回戦 (12月31日)



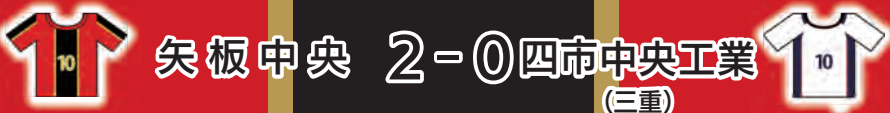
2回戦 (1月2日)



3回戦 (1月3日)



準々決勝 1月5日 駒沢陸上競技場 (世田谷区)



後半は風下で押されるも、安定した堅守で連続完封勝利

北風が強く吹く中、前半、風上を生かしたロングボールを主体に試合を優勢に進める。前半12分、MF 柿崎が右サイドから絶妙なクロスをペナルティーエリア内あげる。そこで待ち構えていたFW 多田が落ち着いてシュートし先制ゴールをあげた。その後、MF 靄見、MF 在間が相手ボランチのパスを封じる積極的なハイプレスを行い、相手攻撃の芽を潰す。そして、前半20分、前線でボールを奪ったFW 多田がそのままドリブルで持ち込み、相手GKとの1対1を制し追加点を決めた。2-0と試合を優位に進めたまま前半を終えた。

風下になった後半は、相手に攻め込まれる時間が増え我慢の展開が続く。時には、自陣ゴール前のペナルティーエリア内に11人が入る全員守備で、相手に決定的なチャンスを与えない守備重視の布陣で反撃を食い止める。反撃を受けながらも追加点が欲しい矢板中央は、相手前線が上がった状況から相手裏の空いたスペースにボールを蹴り出しカウンターを狙うが得点にはつながらない。そのまま試合は動かず終了。矢板中央は6年前の選手権大会で初戦敗退を喫した雪辱を晴らし、連続無失点で同校歴代最高位に並ぶ4強入りを決めた。

準々決勝 (1月5日)



準決勝 1月11日 埼玉スタジアム2002 (さいたま市)



「赤い壁」で猛攻を死守。終了間際、無念のPKに涙

矢板中央にとって2年ぶり3度目の準決勝、同校初の決勝進出をかけて臨んだ大舞台。試合開始直後から相手にボールを支配され自陣に押し込まれる展開が続くも持ち前の堅守で猛攻に対抗。前半22分、相手が放った強烈なシュートをGK 藤井が腕1本ではじきゴールを守る。サイドから相手が切り込むも、DF 加藤やDF 矢野が厳しいマークで対応し抑え込んだ。度重なるピンチを全員守備で前半を無失点で切り抜けた。後半に入っても、相手の波状攻撃が続く。攻撃陣も自陣深くまで下がり守る展開に、

なかなかボールを前線に運ぶことができない苦しい状況。後半9分、途中出場のMF 宮野がカウンターから相手ゴールに向け強烈なシュートを放つがゴール枠右外に惜しくも逸れてしまう。その後も、FW 多田を中心に反撃を試みるが、相手ゴールまで遠くシュートまで持ち込めない。90分に渡り猛攻を受けながらも「赤い壁」を築きゴールを死守してきたが、終了間際の後半ロスタイムにPKから1点を奪われる。そのまま試合終了を告げるホイッスルが無情に鳴り響き、念願の同校初、県勢では55年ぶりとなる決勝進出は叶わなかった。

準決勝 (1月11日)



「大会優秀選手」に輝いた矢板の星！



#4 DF 長江 皓亮 選手 (3年)

みんなの力で「赤い壁」を築いた
ディフェンスラインの調整やコーチング、得意の空中戦、そのようなところを評価してもらえたのだとしたらうれしいです。チームに対してキャプテンらしいことは

あまりできなかったが、ピッチでは守りの司令塔として、声掛けを積極的に行い矢板中央のサッカーである「堅守」を体現できたと思う。



#12 GK 藤井 陽登 選手 (1年)

「先輩に感謝したい」
選ばれて素直にうれしいです。みんなが堅守してくれた部分大きいと思うので先輩たちに感謝したいです。予選の県大会から毎試合失点が続いてい

て、自分自身にイラつくこともありましたが、3回戦・準々決勝では無失点に抑えることができたので、準決勝は落ち着いてプレーすることができました。

大会を振り返って.....



矢板中央高校サッカー部
高橋 健二 監督

勝ち進むごとに安定感が増していった。試合が選手たちを成長させてくれているのだと感じた。
全国大会での第3位は、第88回、96回、そして今回の98回大会と3度

目だが、今大会は特に感慨深い気持ちがある。前の2大会は2回戦からの出場であったが、今回は1回戦から勝ち上がった。4試合戦った後の埼玉スタジアムでの準決勝は、選手たちにとって体力的に辛い中での戦いだったと思う。
準決勝で対戦した静岡学園は、テクニクのある強いチームだった。1回戦から準々決勝までは前線に人数をかけて得点を奪うことができたが、静岡学園のボール保持力、守備力の前に、どうしても前線に人数をかけることができなかった。しかし、矢板中央のチームコンセプトに掲げている、最後まであきらめない全員サッカーをすることができた。特に守備面では体を張

り、ゴール前を全員で守るという姿を応援してくれた方たちに見てもらえたと思っている。この大会で学んだ多くのことを次のチームづくりに生かしていきたい。
優秀選手には、キャプテンのDF 長江、1年生GKの藤井が選ばれた。藤井には、全国のピッチに立ったということを1つの財産に、向上心を持って謙虚に取り組んでもらいたいと思っている。
長江はキャプテンとして、後輩も意見が言える環境をつくるなど、学年を超えたチームワークを築いてくれた。また、自分たちで話し合いを持つなど、自立したチームづくりをしてくれたことに感謝したい。

飛躍するために



高橋 健二 監督

監督歴 26年
 【チーム成績】
 ◎全国高校サッカー選手権大会
 ・3年連続10回目
 ・令和元年度第98回大会 第3位
 ・平成30年度第97回大会 ベスト8
 ・平成29年度第96回大会 第3位
 ◎インターハイ県予選
 ・令和元年度、平成30年度 優勝
 ◎県新人戦大会
 ・平成29、30年度 優勝



DF 加藤 蒼大 選手 (3年)

番号 / #5
 出身地 / 矢板市富田
 前所属チーム /
 ・小学生：ともぞう SC (宇都宮)
 ・中学生：ともぞう SC (宇都宮)



MF 星 景虎 選手 (1年)

番号 / #24
 出身地 / 那珂川町
 前所属チーム /
 ・小学生：ヴェルフェ矢板 U-12
 ・中学生：矢板 SC

DF 加藤 選手

Q 大会を振り返り率直な感想は

A 日本一を目指していた。3位という結果もすごいが優勝できなかった事がとても悔しい。「あと1分耐えれば」と悔しい気持ちでいっぱい。「静岡学園に勝っていたら、優勝を狙えたのでは」という思いが自分たちの中にあった。

Q 静岡学園と実際に戦ってみて

A 今まで戦ったチームの中で攻撃は1番すごいと思った。なかなか攻める機会が無かった。後半、何度かチャンスがあったが、カウンター攻撃をしても相手の方が人数が多いので、取られてしまうということが多かった。プロに内定している静岡学園の松村

選手はドリブルとスピードがあったが、スピードでは負ける気がしなかったので、じっくり耐えて簡単に行かないように心掛けて守っていた。

Q 後輩たちに期待すること

A 自分たちの代より個々の能力が高い選手がたくさんいるので、しっかり努力をして、自分たちができなかった全国制覇を成し遂げてほしい。

Q 新聞などで酷評されていたが

A 最初は「この記事は何だ!」と思ったが、プリンスリーグでも全く勝てず言われても仕方がないと思った。何を言われても自分たちのサッカーをすれ

～ 負けた試合から学んだ多くのこと～

ば勝てると思っていた。酷評されていたからこそ、それを覆すためにコーチ陣も厳しく指導してくれたし、結果的にチーム力が高められたと思う。修正部分は、負けた試合の方が気づく点が多いと思う。勝ちたかったが、逆にプリンスリーグなどで負けて得たものが多かった。それはそれで良い結果につながったのかなと思う。

Q これからの進路は

A 大学に進学して、叶うのならもちろんプロも目指したい。将来的には、指導者などサッカーに携われる仕事がしたいと思っている。

MF 星 選手

Q 1年生で全国大会に出た感想は

A うれしい反面、出られない先輩方もいるなかで「出ていいのかな」という不安もあった。でも選ばれたからには最後までやり遂げなくてはという責任感の方が大きかった。この経験を出られなかった人たちにも伝えて行かないと日本一という夢は叶わないと思うので、そういう責任も感じている。

高校には全国から我こそはという子たちが来るので常に練習は目の色を変えてやらないと自分のポジションが取られてしまう可能性も大いにあるので気が抜けません。

Q 出身クラブの後輩たちは、自分と一緒にプレイしていた先輩が全国大会で活躍している姿を見て、憧れていますよ.....

A 自分が矢板 SC の1期生ということもあるので、自分の背中を見て後輩たちが、がんばってくれたらうれしいなと思う。矢板中央で、また仲間として一緒に切磋琢磨して活躍できたらいいなと思う。

Q 星君是那珂川町から通い?寮?

A 通いです。親が送り迎えをしてくれています。弟がヴェルフェ矢板に通っているので、その練習終わりに一緒に

～ 仲間と一緒に日本一の夢を叶えたい～

帰ったり。タイミングが合わない時には、自宅と矢板を何往復もすることになるので.....そんな中ずっとサッカーを続けさせてくれている親には本当に感謝しかありません。

Q 今後の目標は

A 県新人戦のタイトルを取り、勢いに乗りたい。フル出場できるようにがんばりたいが、監督の起用の仕方により途中出場ということもあると思うので、自分に与えられた仕事と時間で、きっちり結果を残していきたい。

高橋監督

Q 星君は、走り回っているイメージ。星君の途中出場での試合の流れが変わったのを感じました

A 変えられる選手だし、星が居たら選手権に出られたと思っている。県大会の準決勝で同点ゴール、ものすごいミドルシュートを決めた。あれがなかったら準決勝で敗れていた。矢板 SC から上がってきた星の活躍が全国へ導いてくれたと私は本当に思っている。多分、先輩達も思っている。本当に苦しいゲームだった。そこで星が同点のゴールを決めてくれた。星の全国出場への貢献度はかなり高い。

～ クラブチームの設立が好循環を生んでいる～

Q 矢板のチームで育ってきた選手の活躍について

A 高みを目指して全国各地から矢板中央に来てくれている。私としたら1人ひとりが自分の子どものようなもの。ただ、星は中学1年の時から見ているので、かわいらしい中学生が大舞台で活躍できるようになるまで成長してくれたのはうれしい。ヴェルフェ矢板も含めれば矢板で9年間育ってきた選手なので、そういう選手がたくさん出てきてくれればいいと思う。

加藤は出身が地元の矢板市。矢板で育ってきた子が、地元の矢板中央に入って活躍してくれることは、やはりうれしい。大会には親戚の方が応援に

かけつけてくれていた。多くの人自分が応援してくれている姿を見て、彼は誇らしく感じたのではないかな。

もちろん、全国から来てくれる子どもたちが、地域の方たちのお付き合いを通して、支えてもらっていると感じている。矢板を第2のふるさとのように感じているのではないかな。

今回ジュニアユースから育ってきた選手が活躍している。幹が出来てきたかと思う。指導面でも矢板中央の卒業生が何人も外部コーチとして矢板セントラルスポーツクラブの職員として戻って来てくれているのでこれもすごくいい形になってきたかなと思う。

第50回下野杯争奪 県下中学生サッカー大会



138チーム



矢板サッカークラブ

2016年、矢板中央高校の東泉グラウンドを高校の部活動だけでなく地域の子どもたちに還元することで、次代のサッカー界を支えるより良い選手を育成することをコンセプトに、ジュニアユースチームを有していた「ヴェルフェ矢板」の協力のもと、矢板中央高校サッカー部の下部組織として、中学生を対象としたクラブチームを設立。クラブコーチは、矢板中央高校サッカー部のコーチ陣が兼任し指導にあっている。将来にわたり活躍できる選手の育成をモットーに、高校進学の際の進路指導では、個性を活かせる進学先をアドバイスするなど、選手1人ひとりの特性を引き出す指導を行っている。



FUTEBOL CLUBE DE YAITA



矢板SC ジュニアユース
上林 孝至 監督

チームレベルが高まってきた

この下野杯争奪県下中学生サッカー大会は、県内のクラブチームと中学校の部活動チームが出場するので、県内の全てのチームが集って行う最も大きな大会です。

昨年はベスト16という結果だったので、その先輩たちを超える3位という結果は、子どもたちにとって大きな自信につながるといえます。

今回のチームは、全員が2年生のチームなので、これから更なる成長が楽しみです。

結果と内容にこだわる

中学生になるとサッカーの進路で、部活動かクラブチームかの選択があります。クラブチームを選ぶ子は、ハイレベルなところでサッカーをしたいという高いモチベーションを持つ子が多いと思います。

シーズン中はさまざまな大会があり、矢板SCはその各種大会で上位進出や関東大会出場という結果を残してきました。しかし、結果だけでなく、選手個人の成長といったところにも重点を置き指導を行っています。

選手の可能性を広げること

子どもたちが3年生になり、これから巣立つときに、プレイヤーとしてどう能力を身に付けているかということが大事だと考えています。

子どもたちとも1人のプレイヤーとしてどのような能力を獲得したいかということをお話しますし、コーチのミーティングをするときには、まずそこを軸にして練習メニューや方針を決めています。



まず、子どもたちの可能性を広げ、選択肢がたくさんある中から自分にあったスタイルの進路を選ぶようにすることが大切です。矢板SCは、あくまでも選手が大人になるまでの良い意味での通過点に過ぎないと思っています。

創設から4年間のチーム成績

- 【関東大会出場】4回
- 【優勝】
 - ・第16回県クラブユース ラストゴール杯
- 【準優勝】
 - ・高円宮杯第30回全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会県予選
 - ・第33回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)県予選
 - ・U-13サッカーリーグ2016 ユースリーグ栃木
- 【第3位】
 - ・第12回栃木ユース(U-15)サッカーリーグ
 - ・第34回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)県予選
 - ・第2回県サッカー協会長杯3種チャンピオンシップ



矢板SC ジュニアユース
前主将 成瀬 貴哉 さん(中学3年/左)
新主将 酒井 康太 さん(中学2年/右)

選手として成長できた

【成瀬】

ヴェルフェ矢板と一緒にプレーした星 景虎先輩に憧れて矢板SCに入りました。この3年間で、トラップや基礎的なことのレベルを上げることができ、体も強くなり技術面でも上達しました。

【酒井】

どちらかというと攻める方が好きだったので、どうしてもディフェンスがおろそかというか苦手でした。矢板SCに入り、ディフェンスの力が付きました。

次のステップを見据えて

【成瀬】

ここでのポジションは、フォワードやミッドフィルダーが中心でした。今年の春から矢板中央高校に進学するので、そこでは、チームが苦しいときに点を取ることができる決定力を身に付け、ワンプレーで流れを変えられるような選手になって、星先輩と一緒に高校選手権大会の舞台で活躍したいです。

【酒井】

今は守備寄りのミッドフィルダー、ボランチをしています。自分は、矢板中央高校のプレースタイルである堅守速攻というよりは、技で勝負したい方なのでテクニカルな



サッカーをする高校に進学したいと考えています。

いろんな夢のかたち

【成瀬】

将来的には、今年プロに内定した星 キョウワ先輩、坪川 潤之先輩、川上 優樹先輩、人見 拓哉先輩のように、サッカー強豪校の大学に進学してJリーガーを目指したいです。

【酒井】

指導者になりたいです。担当コーチの指導がすごく熱心で、楽しく練習ができていますので、僕もコーチのようにサッカーの楽しさを伝えられる指導者になりたいと思いました。

第48回栃木県少年サッカー選手権大会



169チーム



ヴェルフェ矢板 U-12

1978年、矢板サッカークラブとして創部。2006年小学生チームが活動を開始。2007年「ヴェルフェたかはら那須」へ改名。2019年にその年の4月にオープンしたとちぎフットボールセンターを拠点により地域に根差し、地域とともに歩み、愛されるチームをめざすためチーム名を「ヴェルフェ矢板」に改名。小学生チームであるU-12は、2015年には県内主要大会3冠、2015年、2016年には2年連続で全日本U-12サッカー選手権大会(全国大会)出場。そして、2019年には栃木県内No.1を決める栃木県少年サッカー選手権大会にて4年ぶり2回目の優勝を果たす。



ヴェルフェ矢板 U-12
福田 丞太郎 監督

良い環境を求めて市内外から

ヴェルフェ矢板は、1年生から6年生まで53人が所属しています。市内在住の子はちょうど半分といったところでしょうか。遠方だと、県南・県東地域、福島県から通っている子もいます。とちぎフットボールセンターが駅から近いことも遠方から通う決め手になっている子もいます。今年の6年生は16人で、矢板SCには12人が行くことになっています。中学生になると勉強もしっかりやらないといけないので、市外から通って

る子は住んでいる近くのクラブチームに行くという子もいます。市内外から自分の技術を高めたいと熱心に通う子たちが多いので、練習にも課題意識を持って集中して取り組んでいます。その成果もあり、昨年行われた「第48回栃木県少年サッカー選手権大会」では、4年ぶり2回目の優勝を飾ることができました。

将来の可能性を広げること

ヴェルフェ矢板では、「サッカーを通じて、地域の子どもたちに夢と感動を与え、健全な青少年育成に貢献すること」をコンセプトの1つに掲げています。小学生の年代は、可能性が無限にあるのでその可能性を大きく広げてあげたいと思っています。矢板には、中学生の年代で矢板SC、高校生の年代で矢板中央高と各カテゴリーで活躍しているチームがあり、より良いサッカー環境・指導力の向上を目指し、チーム間の交流や指導者同士の連携も盛んに行われています。子どもたちには、どのサッカーチーム

に行っても活躍できるように育ててあげることが非常に重要だと思うので、個人を育てるということを常に心掛けています。

サッカーを通して人間形成

大会で優勝できるのはうれしいことですが、大会は自分たちの力を試す場であって、最も大切なことは、子どもたちが、1人の人間として成熟するサポートをすることだと私たちは考えています。サッカーの技術面だけではなく礼儀正しさや相手を思いやる心、コミュニケーション能力など、サッカー以外にもこれからの生きる上で大切なことを育ててあげたいと思いながら指導にあたっています。



ヴェルフェ矢板 U-12
成瀬 智哉さん (小学6年/左)
宍戸 佑多さん (小学6年/右)

Jリーガー、海外でも活躍したい！

僕たちは矢板に住んでいます。他の6年生も学校は違うけどみんな仲良しです。今年の6年生のほとんどが矢板SCに行くので、そこで技術を鍛えて矢板中央高校に入り選手権で全国優勝をみんなで目指したいです。練習が辛いと思ったこともあったけど、それをがんばれたから少年サッカー選手権大会で優勝できたと思うし、

大舞台で戦うという、とても良い経験をする事ができました。コーチは、技術だけでなくメンタル面も鍛えてくれたので、大きな大会でも冷静にプレーすることができました。将来、高校・大学・Jリーグ・海外で活躍できる選手になれるようがんばりたいです。



ヴェルフェ矢板 U-12
星 宗介さん (小学5年)

兄の景虎選手が目標！

去年の少年サッカー選手権大会では、途中出場した準決勝で、決勝点を決められたことがとてもうれしかった。大会2連覇を目指してがんばりたいです。サッカーを始めたきっかけは、お兄ちゃんがサッカーをやっていて、楽しそうだったので僕も始めました。今、お兄ちゃんは、矢板中央高校サッカー部にいて、この前の全国大会に出

場しました。全国大会で走り回っているのを見て、キレがあってすごかったいいなと思いました。高校生になったら、強豪校に行って、あこがれのお兄ちゃんのように活躍したいです。高校選手権で活躍してプロになり、欧州チャンピオンズリーグに出るのが夢です。夢が叶うように今からがんばりたいと思います。